

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

8月 3日

第1聖日

3363号

「主の日の備え」

(I テサロニク連続講演第16回)

あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まして、慎み深くしましょう。テサロニケ I 5 : 5, 6

聖言

礼拝の恵み⑬ 第一七章

第六部 礼拝のための力

礼拝のための力は神の第二位、聖霊である。

第二節 聖霊のみわざ

(三) キリストとの関係。聖霊は我らの主の生活の中で重きをなしている。

a) キリストの受肉においてガブリエルはマリヤに「聖霊があなたに臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」(ルカ一ノ三五)。

b) 地上でのキリストの生活において。バプテスマを受けた時、聖霊がはどのようにキリストの上に下った(マタイ三ノ一六)。聖霊は救い主を試誘に導いた。そして試みられている間、キリストに力を与えた。こうしてキリストは悪魔に打ち勝って試誘から出て来られた(マタイ四ノ一〜一四)。キリストの伝道においてキリストが語りたもうたのは、聖霊の力によってであった(ルカ四ノ一八〜二二、ヨハネ三ノ三四)。

c) キリストの死において。キリストが御自分を神にささげたのは「永遠の聖霊によって」(ヘブル九ノ一四)。

d) キリストの復活において。「聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」(ローマ一ノ四)

e) 復活後のキリストの務めにおいて。(使徒一ノ二)。

(「礼拝」APギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年七月二七日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「主の日の時期」

(二テサロ二連続講演第一六回)

「兄弟たち。それがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちのために書いてもらう必要があります。主の日は夜中に盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それがわがれることは決してできません。」(テサロニケ一五ノ一―三)

再臨は南海トラフ地震がくるよりもっと現実です。何時来ても不思議ではありません。しかも、抜き打ち検査のように予期しない時に訪れます。されは妊婦に陣痛があるように必ず訪れます。その時は御子も知らず、ただ御父のみ知っておられます。神様に再臨の近いのを教えていただき、備えをしなければなりません。再臨の第一の備えは信仰を持つことです。人間は神様に作られたものです。しかし、神の言葉を守らず罪を犯して神様から離れてしまいました。そのような私たちを救うためにイエス様をこの世に送ってくださったのに人間は十字架に殺してしまいました。でも、これを私たちの罪の身代わりとされたのです。これを信じた人を救われるのです。だからそのことを信じて信仰を宣言するために洗礼を受けてクリスチャンになることが必要です。それから子どもが生まれてお乳を飲ませなければ死んでしまいます。そのようにクリスチャンに産まれたなら、日曜に教会に来て礼拝をなさげること。それから心の食べ物聖書を読んで祈りをなさげること。そうするなら成長するのです。再臨の第二の備えは子供が成長するために大切なことは体と頭を働かすことです。イエス様が昇天された後、一一〇人の弟子が一〇日間お祈りしていると聖霊が降臨して彼らは聖霊に満たされ、人々にイエス様のことを大

胆に述べ伝えたのです。私だけが救われても嬉しいことはありません。家族、親戚、友人、全ての人と一緒に再臨を迎えたいです。今ノアと言う映画をしています。全世界が大洪水で滅びる聖書の物語です。これは、何を教えているかと言うと、滅びとともに救いの道もあるということです。滅びの面を見ても救いはありません。全員が救われるように人々に十字架の福音を伝えなければなりません。

二〇一四年七月三〇日午後七時 祈祷会 山本牧師

「エルサレムを罰する者の幻」(エゼキエル連続一六回)

「すると、主は私に仰せられた。「イスラエルとユダの家の咎は非常に大きく、この国は虐殺の血で満ち、町も罪悪で満ちている。それは、彼らが、「主はこの国を見捨てられた。主は見ておられない。」と言ったからだ。だから、わたしも惜しまず、あわれまない。わたしは彼らの頭上に彼らの行いを返す。」ちょうどそのとき、腰に筆入れをつけ、亜麻布の衣を着ているその人が報告してこう言った。「あなたが私に命じたとおりに私は行いました。」(エゼキエル九ノ九―一一)

一、一―六 六人の破壊の御使いと、もう一人の御使いに對する命令

二、七―一一 エルサレムの破壊の光景、預言者と主との問答

「主はこの国を見捨てられた。主は見ておられない。」(九)と民は神に抗議した。このことばは自分たちを見捨てた主の無責任に對する抗議と見捨てられたあきらめと「主は見捨て、見えておられないのだから、何をしようが勝手だ」という居直った気持ちだ。そのような不信仰で反抗的で自暴自棄な態度が主の裁きの理由であった。主は救うために裁きがある。ゆえに、神の怒りに對して反抗するのでなく、悔い改めて福音

のよつて救われなければならぬ。

仮庵聖会

日時 八月一五日(金)

場所 本部教会

テーマ 終末における再臨と聖潔

午前一〇時「終末の前兆」(マタイ二四)

山本牧師

午後 二時「聖霊の満たし」(マタイ二五)

足達牧師

午後 七時「再臨の前に建つ教会」(マタイ二五) 西田牧師

食事代 昼と夕 千円

お好み焼きがあります。

本日中に予約をしてください。 係り 庄司姉 尾瀬姉